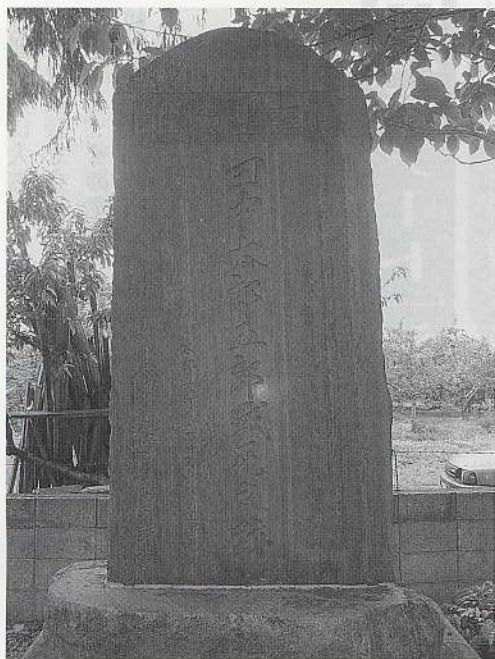


東北自動車道大鰐弘前ICから北へ約2km北上すると、水田に囲まれたリング園が見えてくる。その一角に「津軽忠臣田中太郎五郎戦死之跡」と銘が刻まれた石碑がある。国土地理院発行2万5千分の1地図では、「津軽忠臣之碑」と記載されている。

田中太郎五郎という人物は、1579（天正7）年7月4日、平川支流の六羽川での合戦において大浦方

の先手（先発部隊）として戦闘に参加していたが、主君大浦為信の身の危険を察知して、為信が着用していた甲冑をもらい受けて偽物の為信を演じ、身代わりに討死したという。この太郎五郎の機転のおかげで大浦方は合戦に勝利したといわれ、彼の功績を讃えるために、1959（昭和34）年7月4日、

地元の郷土史家ら



田中太郎五郎顕彰碑
「津軽忠臣田中太郎五郎戦死之跡」
(2012年6月9日 蕨谷大輔撮影)

物や藩士の由緒書などに記されている。それらによると、合戦の3年前に大光寺城（現平川市大光寺）を追われた同城主の子息六郎・七郎兄弟や重臣瀧本重行らが、同城奪還のため、逃亡先の秋田比内地方（現秋田県大館市比内町）の軍勢を引き連れて挙兵

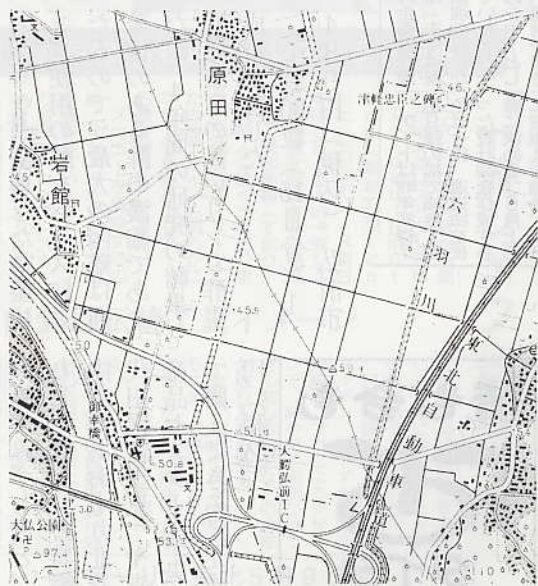
し、大浦方と繰り広げた戦闘であるという。弘前藩側の資料は後世に作成されたものであり、藩祖為信を顕彰する意味合いが込められていることから、歴史的事実が歪曲されている可能性があると考えられている。近年の研究では、同合戦は、檜山安東氏（秋田氏の祖）が大浦方による浪岡城攻略の報復として進軍したという説

がある。しかし、秋田側や南部側の資料がほとんどなく、同合戦の詳細は今なお不明である。毎年7月4日には、地元の農家によって顕彰碑周辺の草刈りや枝打ちなどが行われているものの、訪問者は少ないという（『東奥日報』2011（平成23）年7月14日付）。六羽川の合戦そのものが風化していくのを防ぐためにも、顕彰碑の存在が広く認識され、守り継がれていくべきである。

忠臣の顕彰碑

蕨谷 大輔

（県民生活文化課
県史編さんグループ非常勤嘱託員）



田中太郎五郎顕彰碑の位置
(国土地理院発行2万5千分の1地図
「大鰐」(弘前5号-4)より転載)